

第129回社会保障審議会医療部会でいただいた主なご意見

第129回医療部会（令和8年7月24日）でいただいた主なご意見①

<養成・確保体制について>

- ・ 特に地方自治体、都道府県の役割が重要だと思っており、介護のプラットフォームの話のようなものを医療でもつくるべき。主体的に都道府県、行政が関わるということで進めるのが大事。

<現状把握・データ整備について>

- ・ より効率的に人材の養成や確保を進めていくためには、職種別・地域別に、どの程度の人材が必要なのかといったような見通しを持った上で、具体的な対策について議論を深めていただきたい。
- ・ 各職種別の将来予測、中長期的な将来予測の下に、どのように育成すべきかを考えるべきではないか。
- ・ 職種別のいわゆる離職をする人たちへの対応というものが、どういう形で捉えられて、どういう対策を考えているのかということを含めて、しっかりと対応する必要がある。
- ・ 養成校がどういった地域をカバーしているか、あるいはその職種別・地域別の需給はどうなのかといった細かな分析を行った上で、データに基づく議論を行っていただきたい。

<学校養成所の運営について>

- ・ 医療関係職種の養成所で経営上の理由等でやむなく廃止を予定している課程については、早急に対策を行って、できるだけ廃止を食い止める必要がある。地元自治体においても最大の支援をお願いするとともに、国としても緊急的な対応として財政支援を要望する。
- ・ 養成所等のサテライト化（分校化）については、今後の人口減少社会を考慮すると必要な対応と思われる。実現のために、看護学校で手当てされているような本校分の補助金をサテライト校にも手当てすべきと考える。
- ・ 恐らく養成に関しては専門学校と大学との統合みたいなものも考えていかないといけない。その場合に、サテライト化も含めてやっていくということが求められるのではないかと。
- ・ コメディカル教育の質を上げるという点から、学校に配置されるべき機器の類い、人的な配置、そういうものを考えて議論することが必要ではないか。

第129回医療部会（令和8年7月24日）でいただいた主なご意見②

<養成課程について>

- ・ 社会人などと言っても、看護師養成所において大卒などの高卒以外の入学者数が大きく減少している実態もあり、養成課程などの議論と併せて、処遇改善、働きやすい環境づくり、そういったものを検討いただき、担い手の確保に向けた取組をお願いしたい。
- ・ 医療関係職種間でのキャリアチェンジについては、今でも既修単位の認定は可能だが、単位認定の判断が難しいと聞いていて、進んでいない状況である。どの程度行われているのか、どのようにすれば単位認定が進むのか、対応できない課題があるのか、キャリアチェンジへのニーズが本当に高いのかなどについて把握した上で議論を進めていくべきと考えている。
- ・ 医療関係職種間でのキャリアチェンジについて、本格的に議論するというのであれば、医師、歯科医師、薬剤師も含めた議論が必要と考えている。
- ・ 学校というものが、体制を整えたり、考えたりするには時間がかかり、機動的には動けない組織である。中長期的な話だと思っても、今から動かないと、間に合わないということになりかねない。タイムラグを意識した議論の進め方をしたい。

<その他>

- ・ 体制の整備あるいはカリキュラムの見直しといったように、準備に一定の時間がかかるものもあれば、働く環境の好事例を横展開するといったような、あまり時間をかけずに現場の取組を着実に進めていく内容もあり、中長期的な課題と短期的な課題を整理し、できるものから速やかに対応していくということも検討していただけるといいのではないかな。
- ・ DXとかいろいろなものを使うことによって、人員配置基準そのものもこれからの人口減少時代にぜひ見直していただきたい。
- ・ 医療界に進みたいと思うインセンティブが働きにくいような気がしている。待遇改善というのはなかなか難しいが、魅力ある職場であるというようなアピールも必要と考えている。
- ・ 一番重要なのは医療従事者の頭数ではなく、安全で質の高い医療を提供できる人材をしっかりと育成することだ。
- ・ リモート授業やシミュレーターなどの活用も一つの方法ではあるが、よりよい医療人材を育てるためには、医療を受ける側も、国民の皆様の理解、御協力も必要である。
- ・ 多様な人材の参入に関しては、医療提供体制の確保の観点から、例えば地域枠を設け、その授業料を減免することの導入も考えるべき。